

化学小説
5話連続

人生は化学式。

2話・語られる異世界とアルミ缶



「つまり…キミの世界の悪いヤツが次元を越えて、こっちの世界に攻めて来るってこと？」

「そうさ。こちらの世界にはない技術を手に入れるためにね」

「プールの水面をTV電話のように使い、異次元から語りかけてくる彼の話は、まるで映画の物語に出てきそうな内容だった。」

「技術って？爆弾の作り方とか？それとも遺伝子技術とか？」

「…いや、アルミ缶の生産技術だよ」

「はあ？アルミ缶？アルミ缶ってあの自動販売機とかでジュース売ってるアレ？え、なんでそんなモノに興味があるの？」

「実は、こちらの世界では宝石や黄金よりも水が貴重でね」

「え？水が？何でそんなことになってるの？」

「まあ…ツケが回ってきたってヤツさ。そのせいで水の保存方法が大きな課題でね。そこに目をつけた」

「密売組織が、キミの世界にある高品質なアルミ缶を大量生産できる技術を狙っているってわけさ」

「なるほどねえ。いや、別にまだ全部信じてる訳じゃないからな！でも…どうすれば僕は」

「この世界を危機から守ることができるのかな？」

「…ありがとう。じゃあまずは、キミの世界のどこかにある『次元の扉』を探してくれないか？」

具体化

化学のチカラで夢を具体化。
SHOWA DENKO
www.sdk.co.jp